［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価報告概要表

作成日平成21年 2月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	1070800329
法人名	社会福祉法人恵の園
事業所名	グループホームさつき
所在地	渋川市字折原3646－4 （電 話） 0279-22-1730

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年1月21日

【情報提供票より】（ 平成21年 1月 10日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	9 人	常勤 8人 非常勤 1人 常勤換算 8.6人

（2）建物概要

建物構造	コンクリートブロック造り
	2 階建ての 1 階 ～ 1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（月額）	33,000～35,400 円		その他の経費（月額）	光熱水費400円／日・冷暖房費200円／日他
敷 金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	又は1日 950円			

（4）利用者の概要（ 1月 10日現在）

利用者人数		9 名	男性	6 名	女性 3 名
要介護1		1 名	要介護2	3 名	
要介護3		1 名	要介護4	3 名	
要介護5		1 名	要支援2	0 名	
年齢	平均	79 歳	最低	66 歳	最高 94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	北毛診療所・北毛病院・西群馬病院・榛名病院等

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、県等が主催する外部研修に職員を参加させると共に、法人の年間研修計画に基づき、現任研修、管理職研修、新任職員研修等を受講させ、職員は業務に関する半期目標を設定し半期毎に上司と面談し目標の振り返りを行う等日常業務を通じた指導も積極的に行い職員の資質向上に取り組んでいる。入居者に対しては個別支援に力を注ぎ、カラオケボックスや個人の買い物の付き添い、県内はもとより県外の墓参りや県外の友人宅訪問、近くのパン工房に出かけコーヒーを飲む等入居者の意向や希望を大切にした支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価の結果を全職員に配布し、職員会議に諮り課題の改善に取り組んでいる。主な改善課題である「市町村との連携」についてはスプリンクラーの設置費助成について相談し指導を受け、「重度化や終末期に向けた方針の共有」については「重度化した際の各事項に関わる指針」の作成について相談し指導を受け改善している。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

評価の意義や目的を職員は共有し、自己評価は全職員が記入し管理者が取りまとめている。自己評価に際し、「地域の人達との交流促進」等について職員から提案があり、改善計画を作成し取り組んでいる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議を6ヶ月毎に開催し、現況報告や意見交換等を行っている。会議は2ヶ月に1回以上開催し、自己評価の状況や外部評価結果の課題改善の取り組み状況等を報告し、話し合いを行い、そこでの意見を事業所の運営に活かすよう期待する。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

事業所の広報紙に、「重度化した際の各事項に関わる指針」等事業所の運営に関する事業内容を掲載し説明している。また、家族会会議を開催し意見交換を行い、家族の要望等を介護計画に反映させている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

法人が運営する総ての事業所を対象とした納涼祭や文化祭に、地域の人達を招待している。事業所は、自治会や老人会等が行う行事などの情報を収集し、入居者も地域の一員として地域活動や諸行事に参加し、地元の人々との交流促進に努めるよう期待する。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人が運営する事業所の共通理念である「自らを愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」のもとに、事業所独自の理念として「毎日を大切に過ごしたい・・・・をサポートする」を掲げ日々の支援に取り組んでいる。	○	理念は、事業所が目指すサービスのあり方を示したものであり、地域密着型サービスの目的や役割を管理者及び職員で話し合い、事業所の理念を見直すよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関脇に掲示され、職員は共有している。理念に基づき「毎日を大切に過ごすため」、個人が希望する自由な行動を基本に、日々の生活は見守りを大切に支援している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人が運営する総ての事業所を対象とした納涼祭や文化祭に、地域の人達を招待している。また、事業所は中学校の体験学習やホームヘルパー実習、看護学生のボランティアを受け入れている。	○	事業所は、自治会等が行う行事等の情報を収集し、入居者も地域の一員として地域活動や諸行事に参加し、地元の人々との交流促進に努めるよう期待する。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を、職員は理解し共有している。自己評価は、全職員が記入し管理者が取りまとめている。「地域の人達との交流促進」等について職員から提案があり、今後改善計画を作成し取り組むこととしている。外部評価の結果を全職員に配布し、「市町村との連携」や「重度化や終末期に向けた方針の共有」等について職員会議に諮り、課題の改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を6ヶ月毎に開催し現況報告等を行い、介護保険制度等について説明し意見交換を行っている。自己評価及び外部評価については、議題として提案されていない。	○	運営推進会議を2ヶ月に1回以上開催し、自己評価の状況や外部評価結果の課題改善の取り組み状況等を報告し、話し合い、そこでの意見等を事業所の運営に活かすよう期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	メールや電話を利用し空き室状況を担当者に伝え、「スプリンクラーの設置費助成」や「重度化した際の各事項に関わる指針」の作成について相談し、指導を受けている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所の広報紙を年4回発行し、行事予定や結果、「重度化した際の各事項に関わる指針」等事業所の運営に関する事業内容を掲載している。遠方の家族へは健康状況等を電話連絡し、連絡漏れのないようマニュアル作りを行っている。金銭管理は預り金処理し、出納帳に記帳し領収書を添付し家族に説明し署名をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体の連合家族会の定例総会で、事業所の前年度事業報告や今年度事業計画を説明している。定例総会後に事業所別家族会を開催し、意見交換等を行い、家族からは入居者が出来ることはやらせて欲しいとの要望があり介護計画に反映させている。苦情相談窓口は重要事項書類に明記し、入居時に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動や退職の意向を職員に聞き、その補充には早めに対応している。新規採用職員には綿密な事務引き継ぎを行い、日々の介護等について1ヶ月間マンツーマンで指導し、入居者とは細やかなコミュニケーションを図り入居者のダメージを防ぐよう努めている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修施設があり、人材育成係が年間研修計画を組み、現任研修・管理職研修・実務者研修・新任職員研修等が開催されている。職員は業務に関する半期目標の設定を行い、半期毎に上司と面談し目標の振り返りを行う等、日常業務を通じた職員の資質向上に取り組んでいる。県等が主催する外部研修受講後は報告書を作成し、職員会議で発表している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員は毎月開催される同業者との会議に出席し、情報交換や交流を図っている。地域密着型サービス連絡協議会に加入し、大会で事例発表したり、相互派遣研修に参加する等他事業所の情報や事例を参考としてサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の家庭を訪問し、生活歴や職歴、趣味等を聞くと共に、施設見学の折に事業所の取り組み状況等を説明し、入居者とお茶を飲み懇談して事業所の雰囲気に馴染めるよう努めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は、自身で庭の除草や白菜や大根の漬物を行っている。また、プランターに草花の植栽、配膳や下膳、居室や廊下等の掃除を、職員と共に行っている。職員は入居者との会話や仕草の中に優しさを感じ取り、人間としてのあり方を教えられる等入居者から学んだり、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に対する担当制を採り、入居者3名に対して職員2～3名が担当し、入居者の意向や希望等を把握している。言語障害のある入居者には、幾つかの選択肢を提示し選んでもらうと共に、家族からも本人の思いやこれまでの暮らしぶり等を聞き、必要事項は介護計画に反映している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護に関する家族の意向を記録した業務日誌やアセスメントを利用し、担当職員が素案を作成し、毎月開催されるケアカンファレンスでまとめ、更に職員会議に諮り介護計画を作成している。家族には介護計画を説明し意見を聞き、確認のうえ署名を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則6ヶ月毎の見直しであるが、3ヶ月毎にモニタリングを行い、毎月開催しているケアカンファレンスで健康状態の変化等により随時見直しを行っているが、介護計画には記載がない。	○	見直し以前であっても、現状に即した介護計画を作成されるよう期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別支援として、自由な活動時間を月間行事に組み入れ、長野県の友人宅や横須賀の親戚訪問、墓参りや生家訪問、買い物等のサポートをしている。また、かかりつけ医や本人が希望する理美容院の送迎を職員が行っている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医への通院は職員が対応し、ホーム協力医は毎月1回往診があり、夜間の緊急時も対応している。看護業務は医師の指導のもとに訪問看護ステーションを利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について市の指導を受け、「重度化した際の各事項に関わる指針」を作成し、職員に配布し職員会議で説明している。終末期の対応については、事業所で生活を継続することが困難となった際は医師の診断に基づくことを家族に説明し、入居契約時に同意を頂いている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝夕の申し送りや介護日誌等の記録や閲覧は事務所で行い、事業所からの書類の持ち出しを禁止している。隣人愛の理念を体して、日常介護の中で常に年長者として尊ぶ言葉かけに努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活習慣を大切に、食後に喫煙をしたり、好きな日に入浴したり、また、起床や食事、入浴時間等を職員の都合で制限することなく、入居者一人ひとりのペースに合った支援を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は持てる力を活かし、うどんを打ったり、白菜や大根漬けをしたり、盛り付けやお茶を入れ、下膳を手伝っている。入居者と職員は談笑しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	男性と女性の入浴日を分け、同性介助を基本としている。原則週2回の入浴であるが、風呂好きな入居者には希望に沿って入浴を支援したり、夏場はシャワー浴をしている。入浴を拒む入居者には、時間をずらし言葉かけを行い、季節に応じたユズ湯・リンゴ湯等の支援をしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	うどん打ち、白菜や大根漬け、日めくりカレンダーの字を書く、掃除用具を持参し自室や廊下等の掃除を手伝う等入居者の力量に合わせた役割を担っている。また、日帰り旅行や納涼祭、月1回カラオケボックスに出かけるなどの楽しみ事や気晴らしを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩や草花の水やり、庭の草取りをし、1人で近くにあるパン工房でコーヒーを飲んでくる入居者もいる。外出行事は、上毛物産館への買い物、華蔵寺公園やサファリーパーク・グリーン牧場への日帰り旅行、たくみの里での七宝焼きやガラスコップの制作を体験するなど計画的に戸外に出るよう支援している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることは身体拘束と認識し、折に触れ職員に伝え、鍵はかけず入居者は自由に外出できる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人達も加わる自警団を法人が組織し、防災研修会や避難訓練を実施している。法人は年6回の避難消火訓練計画を立て、年1回は必ず「さつき」を火元に想定した避難訓練を行っている。訓練には法人が運営する総ての事業所職員と職員寮にいる職員や地域の人達も参加している。また、法人全体で備蓄を行い、水及び3日間の食糧を防災倉庫に保管している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別健康記録表に、主食と副食の摂取量の割合が記録されている。水分は、おやつの時間と毎食時に摂取している。医師から指示を受けて摂取できない食品のある入居者の食材を冷蔵庫に掲示し支援する等、一人ひとりにあった支援をしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂の3面はガラス戸で、室内に陽光が差し込み明るく温かく、数鉢の観葉植物が配置され、窓際に並べられたプランターには季節の花が植えられ、水槽にはメダカが泳いでいる。廊下や洗面所脇にも観葉植物や季節の草花が置かれている等随所に季節を感じ、明るく気持ちよく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具やテレビ、時計等が持ち込まれ、本人の描いた水彩画や家族の写真、縫いぐるみ等が飾られ、多数の衣類が部屋に掛けられ日々好みの服を着る等一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配慮されている。		